

百尺竿頭に一步を進む

学校長 駒田 勝

七十八回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの三年間の努力に敬意を表すると共に、今日の晴れの日を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。また、保護者等の皆さま、お子様の晴れのご卒業、誠におめでとうございます。今日まで、厳しくも温かく お子様を支えてこられたご家族の喜びも一入のこととお察し申し上げます。本当におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さんが入学された令和五年度は、コロナの感染法上の扱いが見直され、閉塞感に包まれた学校生活とは徐々に決別する一年となりました。翌年度の北海道トマムを舞台とした「修学旅行」は、充実した時間を友と共有し、忘れ得ない思い出となったのではないのでしょうか。中でも、希望参加としたトマム山頂の「雲海ツアー」は、早朝集合にもかかわらず、本当に多くの生徒が参加しました。とりわけ、2日目のツアーでは最高の雲海が発生し、下山後に興奮した様子で語る生徒の姿がとても印象的でした。また、今では実施する高校も減ってきた「マラソン大会」では、先にゴールした女子生徒からの声援に後押しされ、最後の力を振り絞りゴールする男子生徒の姿が頼もしくも見えました。さらには「昇竜祭」や「体育大会」等々、今ではすべての事が懐かしく思い出されていることでしょう。

ところで、昨年十月、京都大学名誉教授の北川 進 博士がノーベル化学賞を受賞された際にインタビューで語った、「幸運は準備された心にのみ宿る」という言葉が話題となりました。これはフランスの細菌学者 ルイ・パスツールの言葉で、元々は大学の式典で使われた言葉のようです。私たちの日常生活にも相通ずるこの言葉は、目的を持ち日々丁寧に生きていくことの大切さを教えてくれています。私が西播磨地区の女子ソフトボール部の支部長をしていた時、ある学校のベンチの後ろに部旗と並んで、「凡事徹底」と書かれた横断幕が掲げられていました。この言葉は、①当たり前の事を徹底的に行うこと ②当たり前の事を極めて他人の追従を許さないこと、という意味になります。パナソニックの創業者で「経営の神様」とも言われた松下幸之助さんが座右の銘として用いた言葉としても有名です。そもそも人間のもつ能力自体は、個人でそれほど大きな差はないはずですが、もし、差があるとすれば、決めたことをしっかりと丁寧に行い続ける力なのかもしれません。「継続は力なり」とは、このことを端的に表した言葉とも言えます。

また、「百尺竿頭」という言葉があります。この言葉は、「百尺の長さの竿の先」から転じて、長い修行の末に到達することのできる極点という意味になります。つまり、卒業生の皆さんにとっての極点は、まさに今日の卒業式に当たります。更に、この言葉は「百尺竿頭に一步を進む」などと用いられることが多く、「卒業」を迎えた今日の日を一つの節目に、明日からは各々のステージで新たな一步を踏み出し、次の「百尺竿頭」を目指す日々の始まりを意味しています。卒業生の皆さんには、今を大切にしながら、明日からの

ステージで更なる高みを目指していただきたい。

因みに、皆さんがこれから歩まれる社会は、その特徴を表す変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を意味する英語の頭文字をとって「VUCAの時代」と言われています。今以上に人、もの、金、情報が国を超えて移動する時代を迎え、さらには人口減少や少子高齢化、情報技術の急速な発展等々、今の大人が誰一人として経験したことのない、不安定で変化の激しい、予測困難な時代を迎えるとも言われています。どうか、卒業生の皆さんには、先行き不透明な未来に対する不安のあまり、慎重になり過ぎないでもらいたい。自らの魅力や才能、可能性を信じ、置かれた場所で全力を尽くす「一燈」として輝き、ひいては社会全体が遍く光り輝く未来を創造していただきたい。皆さんの活躍を期待申し上げます。

結びに、古来中国では川の流に逆らって泳ぐ鯉は、前進を阻む滝をも登り切って、龍に化身すると信じられてきました。これから皆さんが歩まれる「VUCAの時代」にあつてこそ、周囲に流されることなく、自らの主体的な考えを貫き、川上を目指す「鯉」となり、さらには滝をも登り切って、社会という大空を自由に舞う「龍」となれることを期待申し上げます。皆さんへの餞の言葉とします。